

令和三年度 入学式 式辞（山村学園短期大学）

新入生の皆さん、入学おめでとう。

ヤマザクラが咲き誇り、足元には黄色の花のレンギョウ、そして甲高いガビチョウの鳴き声が響き渡る本学

本日は、学校法人山村学園より岡理事長、山村寛前理事長、山村正巳まさき本部長にご臨席をいただいております。

式にあたり

「遊ぶ」と「学び」についてお話します。

子どもは、とにかくよく遊びます。いろいろなものに興味を持ち、いろいろなことをしたりします。そしてすぐに大人のマネをしようとします。じゃれあったり、兄弟ケンカもよくします。一日中そうやって遊んで過ごします。しかし「遊ぶこと」は子どもにとって生きるための知恵を「学ぶこと」なのです。

人間は他の動物と比べて、子ども時代が長い動物です。それは人間の赤ちゃんは、他の動物に比べてとても未熟な状態で生まれてきます。そして人間の赤ちゃんは親の保護なしには何もできません。人間の育児期間が長い理由の一つは、乳児が未熟であることと言えます。そして人間は生きるために知能を発達させてきました。子育てをして「学び」を与え、「遊び」によって経験を積みさせてきました。言葉を覚え、

道具を使い、作り方を学びました。そのためにはすぐに大人になったのではそのすべを身に付けることはできません。したがって人間の子どもは「早く大人になること」よりも「ゆっくりと大人になること」のほうが大切なのです。

それに比べチョウやトンボなどの昆虫は、親が卵を産んだら産みっぱなし。卵から産まれた小さな幼虫は、何の保護もなく自分の力だけで生きていかなければなりません。

「子どもを**守り育てる**」ということは、強い生物だけに与えられた特権と言えるでしょう。

のびのびと「**遊ぶ**」、ときに真剣に「**遊ぶ**」ことを通して、子どもの**感性**に気づき、**子どもの心と体に寄り添える力**を身につけて欲しい。子どもたちの遊ぶ環境や、遊びの中にある仲間関係や人間関係についても、体験を通して自分の体で理解して心で学んでいく、それを知識と結び付け、保育士としての専門性と感性を身に付けていく。これが本学の「**遊んで学ぶ**」の目指すところです。

さて、保護者の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。ご入学、本当におめでとうございます。

昨年度はコロナウイルス感染拡大に明け暮れた年でした。

学園祭を始め、クリスマス会等、数々の行事が中止に追い込まれました。しかし、本学では他大学では延々と遠隔授業が展開される中、三密を避け、消毒や換気に十分配慮しながら六月から対面授業を実施してきました。

新入生の皆さん、「**さいたま景観賞**」を受賞した、緑あふれるこのキャンパスを愛し、入学して良かったと思える学園生活を、先輩と一緒にになって創ってくれること、そして本短大の校歌にも歌われている「**友よ やまむら**」にあるように、人生にとってかけがえのない友をつくってください。

コロナ感染がいまだ収まらない中、このように入学式ができる喜びを胸に

先ほどお話した「**遊んで学ぶ**」の意味を理解し、

本学の自然豊かな「森の学園」での二年間で**感性を磨き、保育の心を十分に育んでいく中で、光り輝く自分を発見していく**ことを期待し、式辞いたします。

令和三年四月一日

学校法人 山村学園短期大学 学長 野口一夫